

平成17年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成17年10月3日(月)  
午後2時～午後3時45分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 議会棟3階 第1委員会室
- 3 出席委員 17名  
金子委員長, 福田副委員長, 尾花委員, 新沼委員, 深澤委員,  
篠崎委員, 櫛淵委員, 山野井委員, 橋本委員, 四宮委員, 鶴見委員,  
梅園委員, 山口委員, 中島委員, 渡辺委員, 荒川委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事
  - (1) 報告事項  
平成17年度関東甲信越静社会教育研究大会について  
「うつのみや人づくりビジョン」の策定について
  - (2) 協議事項  
家庭と地域の教育力向上に関する方策について(1回目)
- 7 発言の要旨

金子委員長	まず, 前回, 複数の委員によりご提案がありました, この会議の開催回数などの進め方について, 事務局より説明いたします。
生涯学習課長	この会議の開催については, 全員で協議することが必要な回数のみを, 予算に計上して開催しております。通常, 特定課題のない場合は2回の開催でありましたが, 今回は, 家庭と地域の教育力についての意見をいただくため, 来年6月までに5回の開催を予定しております。委員の皆さんのご理解をよろしく願います。
金子委員長	ただいま, 事務局から説明がありましたが, この度の任期につきましては, 前回も含め5回の会議を開催し, 委員の皆さんに, 十分なお意見・ご提案をいただけるよう, 進めてまいりたいと考えております。 この件につきましては, 以上でよろしいでしょうか。
一同	異議なし

金子委員長

ありがとうございます。今後も円滑な議事の進行に、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に基づき、本日の議事を進めてまいります。

報告事項の

「平成17年度関東甲信越静社会教育研究大会について」であります、梅園委員から説明をお願いいたします。

梅園委員

9月に千葉市で開催された関東大会に行つてまいりました。全体に非常に素晴らしい会だったという印象です。まず、ボランティアが行き先を案内してくれてわかりやすかった。全体会では、1500人くらいの会館が参加者でいっぱいでした。分科会の生涯学習センターは建物も素敵でした。中のフロアーや手すりなどがすべて木で、雰囲気も良いのです。こちらも300程度の席に空席無く、盛況でした。

まず全体会の報告ですが、資料にありますとおり、文部科学省の方が基調講演されたわけですが、難しいことも噛み砕いて説明してくださり、わかりやすかった。「子どもの居場所」については、大人が意識することで子どもが変わるということや、地域ぐるみの協力体制、出来る人が出来る所で、出来るやり方ではじめよう、ということでした。とにかく、地域の大人が汗をかき、動こうよ、ということ。それから、とにかく行政依存をやめよう、とおっしゃっていた。難しいことですが。結論は出なくとも、集まってみんなで考えるプロセスが大切であり、取り組む内容も、あいさつによるコミュニケーションなど、やさしいことからはじめることが、さまざまな問題の解決の糸口になるということでした。

分科会では鹿沼の方が発表されており、事例もすばらしかったが、もっといろいろな取り組みのことも聞きたかった。次の事例では、手のつけられない荒れた学校をどうするかを地域で考え、資料にあるような6項目を地域のみなさんと一緒にやっていった、というものでした。そうしたら聞いていた皆さんが、ご自分のところの事例について述べられるのはいいのですが、肝心の問題点について、意見が出されなかった。掘り下げた討論にならなかったのが残念でした。きれいごとが終わってしまったかなという感じです。最後のところは、ある委員から出た発言を書きました。

鶴見委員

その最後の部分の、「ポケットマネーとボランティアの社会教育」とは、一体どういう意味なのでしょう。

梅園委員

その方の発言はそれで終わってしまったものですから。印象的な言葉ですが、聞いた人それぞれの理解に任される、といったところです。

金子委員長

そのほか、何かご意見・ご質問はありますでしょうか。

一同	異議なし。
金子委員長	梅園委員さん，大変おつかれさまでした。
金子委員長	では次に，報告事項の 「うつのみや人づくりビジョンの策定について」 を説明願います。
教育企画課長	〔説 明〕
金子委員長	ただ今の説明について，ご意見，ご質問があればお願いします。
四宮委員	家庭教育の意識調査の結果があるが，これは他市と比較できるデータがあるのか伺いたい。宇都宮市民の意識が一般的なのか，特徴的なのが知りたかったが。
教育企画課長	残念ながら比較できるデータはありません。
新沼委員	パブリックコメントについて，期間はどのくらいだったのですか。また，対応はどのようなものだったのでしょうか。
教育企画課長	期間は約1ヶ月であり，8名14件の申し出がありました。そのうち，2件の意見を計画に反映させました。また，3件について，別途計画等に位置づけることといたしました。
新沼委員	8名14件という意見の数は少ないように思うが，実際に素案を目にした人数はわかりますか。
教育企画課長	人数を把握することはできませんが，何度も意見交換会を行い，また広報紙等に掲載したり，市のホームページなどに掲示を行いましたので，かなりの人に素案を見ていただけたのではないかと思います。
金子委員長	この件につきましては，以上でよろしいでしょうか。
一同	異議なし。
金子委員長	それでは，協議事項に入ります。 「家庭と地域の教育力向上に関する方策について(1回目)」を議題といたします。事務局から説明願います。

事務局

〔説明〕

金子委員長

事務局からの説明が終わりました。それでは、これより、今の家庭や地域の現状について、委員の皆さんの身近な例などでも構いませんので、自由なご意見をお願いいたします。

鶴見委員

たくさんのデータを用意していただきましたが、幼児教育の現場で活動していて、このデータに現れている状況が、そのとおりだなと思うところが多くありました。親子教室に参加されるお母さん方も、つい叱りすぎてしまう、と自分を責めたり、そういう自分に夫が冷たい、などいろいろな悩みを抱えているわけです。それから、幼児は、親を含めいろいろな大人との関わりで言葉を覚えていきますが、この大切さがわかっていない人が多いのではないのでしょうか。また、幼児は五感で育つものであり、読み聞かせはもちろん、リズムやメロディーに触れることの大切さも忘れないで欲しいと思います。

あと父親についてですが、父親の育児参加は、母親に偏重した子育ての改善という視点だけでなく、子どもが社会性を身につけるために重要なんだということを知っていただきたい。もちろん、今は働いて社会と接しているお母さんも多いのですが。オピニオンリーダー会の自主事業でも、参加されたお父さん方との話し合いの中で、子育てに参加したいがどうしたらよいかかわからない、という意見が聞かれた。具体的にそういう機会をもてるようになればいいと思います。

それから、今、生涯学習センターで行われている子育て広場では、受講に年齢制限がありません。親のストレス発散にはよい事業ですけれど、特に2歳半から3歳半のこどもは同年齢のカリキュラムが効果的であり、そういう点では子育て広場より親と子のふれあいスクールの方に重点を置くべきではないでしょうか。

四宮委員

子育て広場やふれあいスクールの話が出たが、どれほどの大人や子どもが受講しているのか。それは全体の参加率としてどの程度のものなのか、判れば教えていただきたい。基本的には大人の自覚が大切だと思う。私達の年代だって若い頃は子育てが不安だった。子育てとはこうだ、という一律の方程式があるものではないと思う。もちろん基本的なものはあるのだろうが、大きな枠の話をしていかななくてはならない。一番大事なことは、親自体を、大人をどう変えていくかであると感じています。

事務局

受講者数についてですが、昨年1年間の実績で、幼児と親のふれあいスクール77講座で2,529名、子育て広場では5,406名の参加がありました。児童福祉課など他課の事業を含めると、親も含めた数ですが、のべ12万人の参加実績があります。これに対し、0歳児から3歳児まで

の人数は約2万人ですから、リピーターが多いということになります。フリー参加の講座もあるため、残念ながら参加実数の把握はできません。

本当は、参加してこない親を引き出す工夫が必要であると感じています。また、乳幼児の親に限らず、小中学校の子を持つ親への支援にもご意見をいただければと思います。

篠崎委員

無関心な親への対応が一番の問題だろう。数えたわけではありませんが、感覚的には5～10%はいるのでは。そこに訴えかける方策は何か、と青年会議所でも何度か議論しましたが、結論は、学校やPTAに協力を求めていくしかないのではないかと、いうものでした。最低限のことをお願いできるのはこの組織しかない。どんな講座やイベントを行っても、学校行事以上に人が集まることは考えられないと思います。

深沢委員

「親になること」と「親であること」は違う、といわれます。最初の親になる前や、妊娠中の勉強会なども効果的なのではないでしょうか。

事務局

保健センターのママパパ学級や、中高生対象のふれあい講座もあります。

篠崎委員

高校生の興味を引くのはなかなか難しい。本当は、最初に自分の子どもを抱くときに、出向いて直接話ができるのが一番いい。間違いなく心に響くと思う。もちろん、実現が難しいことはわかっているが。

鶴見委員

子育て広場でも、固定概念を植え付けようとするのではなく、大人の自覚を促すことがもっとも大切だと考えています。学んだお母さんは、自分の子だけよくすればいいというものではない、ということに気づく。子どもとともに親も育つのです。周りの子どもへの配慮を考えられるようになった時に、その人自身が社会教育の支援者になれるのです。参加しない親の引き出す施策も必要だが、こうした既存の事業の継続による地固めも必要だと思います。また、自治体によっては、体験学習の施策を何年間もトータルで取り組んでいるところがあります。宇都宮市でも、そのような理念を持った取り組みが必要なのではないでしょうか。

篠崎委員

私も同じ考えです。ただ、今、私は学童野球で指導していますが、子どもが叱られたと文句を言う親がいる。地域の大人が子どもを叱らなくなったというが、叱れない状況にさせられてしまっているのです。叱ってもらふことの大切さを親にわかってもらわないと。叱ることのできる地域とそれを聞きいれる親の輪が大切。その両方から考えていかないといけないと思っています。

四宮委員

げんこつだけが取り上げられ、どんどん怒ることができない社会になっ

てしまったようです。しかし、難しくしてしまったのは今の大人です。呼びかけても来ない人たちへ、声を掛けるひとつのチャンスは学校だと思えますが、学校の立場としてはどうなのでしょう。

新沼委員

確かに年に1回ぐらい、入学式など出席率の高い行事はあります。その中では、必ず10～15分は家庭の大切さなどについてお話しています。学校の管理者は、保護者への啓発も大きな仕事のひとつだからです。ただ、課題はその後のフォローをどうすればいいか、という点です。

地域の大人が叱れないことについては、顔見知りでなくなると叱れない。自分の経験でも、子どもが中学生やそれ以上になると、地域の子もたちとかかわる機会が減ってさびしい思いをしました。そうすると、身近な地域社会でのコミュニティーも大切なのかなと思います。

梅園委員

私は行事などで子どもとふれあう機会が多いのですが、街で子どもたちに「梅園さん」などと声を掛けてもらえると嬉しい。問題のある親を呼びつけて教育するのもいいけれど、やはり地域の力、地域からのアプローチも大切だと思います。元気な高齢者にも参加してもらおうといいのではないのでしょうか。

山野井委員

体協の役割も近頃は競技力の向上ばかりでなく、地域の教育力を高めることが重要と感じています。子どもの居場所は高齢者の居場所でもあると前回は申し上げた。子どもに名前を覚えてもらおう。これが一番の防犯活動でもあるのです。

行政がやっていることを整理して波及効果を高めることも必要。先ほどの梅園委員の報告に共感いたしました。地域でできることから、の例として地域の体育祭があると思います。最近は役員に中学生が入ってもらうようになった。昼食は同じテントの下で食べる。地域の人がみんなと一緒にあって弁当食べられる場なんて、なかなか無い。これが地域の教育力に繋がるんですね。やめたら終わりです。

それから、今の学校や先生は、本当に大変です。週5日制や2学期制になってから、皆さん夜遅くまで頑張っている。学校を助けながら、みんなで考えていくことが大切なのではないのでしょうか。

金子委員長

いろいろご意見をいただきましたが、この項目につきましては、以上の意見をもとに、事務局でまとめるということで、よろしいでしょうか。

一同

異議なし。

金子委員長

異議なしとのことですので、そのようにさせていただきます。次に、その他に入ります。

委員の皆さんから、何かありましたらお願いします。

尾花委員

県立学校の立場からお願いなのですが、なかなか情報が得られにくい状況にあります。盲・聾・養護学校等にも、生涯学習に関することや市教育委員会の情報を、ぜひこれまで以上に教えていただければと思います。

金子委員長

そのほか事務局からありましたらお願いします。

事務局

〔とちぎ教育の日，教育委員会だより，社教連会報について説明。〕  
〔次回の開催日程 - 1月下旬～2月上旬開催予定〕

金子委員長

この他は、特にないようですので、これをもちまして、本日の会議を終了したいと思います。

活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。